

4 ヨーロッパの農業とEUの影響

○多様な食文化を育んできた農業

ヨーロッパの農業：地形や気候などの自然環境に合った農業を行う

アルプス山脈の北側(フランスやドイツなど)：年間を通して安定した降水量がある

→(**)が行われる

※()とは、家畜の飼育(豚や牛など)と農作物の栽培(小麦やライ麦など)を組み合わせた農業のこと

北海沿岸(デンマークやオランダなど)：気候が冷涼で、土の栄養分が少ない土地が多い

→(**)が盛んに行われる

※()とは、乳牛を飼い、牛乳や乳製品(バターやチーズ)を生産して販売する産業のこと

アルプス山脈より南側(イタリアなど)：高温で乾燥する夏と、降水が多い冬

→(**)が行われる

※()とは、地中海性気候の地域で盛んな農業のこと。夏には乾燥に強い果樹(オレンジやオリーブ、ブドウなど)を栽培し、冬には小麦などの穀物を栽培する

○EUの目指す農業

EUの農業：農地や生産量などの規模が国により異なる

〔 EU 域内全体の()を上げる

〔 個々の農家や地域に補助金を出して保護する政策(共通農業政策)をとる

※()とは、国内で消費する食料のうち、国内産でまかなえる割合のこと

＜主な国の品種別食料自給率(%)＞

	小麦	いも類	野菜類	果実類	肉類	牛乳 乳製品
イギリス	82	75	38	5	69	81
オランダ	27	221	284	22	176	224
ドイツ	152	117	40	25	114	123
フランス	190	116	73	57	98	123
イタリア	66	45	141	106	79	68
スペイン	72	60	183	135	125	76
アメリカ	170	96	90	74	116	104
日本	12	73	77	38	51	59

※日本は2018年、その他は2013年の自給率

〔課題〕 東ヨーロッパの国々がEUに加わったことで、補助金が増加し、EUの財政を圧迫